

スクラップ
アルミ
一部品種を除きバランスか

海外銅など、中国の景気対策などが焦点に

橋本金属
・アルミ
橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

二月前半は、米NY連銀のダドリー総裁が昨年十二月の米利上げ以降、金融状況は著しくひびつ迫していると指摘。世界経済見通しの悪

化やドル高は米経済に悪影響を及ぼすと発言した事から利上げ観測が後退するなどのプラス材料もあつたが、米FRBイエレン議長、中国の通貨政策をめぐる不確実さと原油市場の不確実さがあると懸念を表明した事、一月の米ISM製造業景況指数は四八・二に低下、予想の四八・四を下回つたこと、中東、ロシアなどの主な産油国による協調減産の観測が後退。減産の実現性は低いとの見方が広がつたことなどを受けてLME銅相場はDOWN、二月十五日時点で四、四八八・五ドル(セツル)と月初価格より四五・五ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、サウジアラビアのジュベイル外相は、同国として石油生産を減らす用意はないとの考えを示したこと、WBMS統計で二〇一五年のカッパー需給は二〇一四年の一一万六、〇〇〇トンのSurplusから二〇一五年は一四万六、〇〇〇トンのSurplusと余剰幅が拡大するなどのマイナス材料もあつたが、中国人民銀行が全銀行への預金準備率を五〇パーシスポイント引き下げると発表した事、有力産油国のイランが、サウジアラビアなど四産油国による相場安定への行動に支持を表明した事を好感しLME銅相場はUP、三月二日現在、後半スタート価格から一六四ドルUPの四、七二六ドル。銅建値五七万円のスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (T.T.S.)
一一・九五→一一・四・九五(円)

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比五・八%減の七三万二、八八六台であつた。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比四・六%減の二七万五、一六五台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比〇・二%増の六万七、八一五戸であつた。

◆貿易関連指標

輸出
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電

気銅が二六・八%増の四万八、九六六t、スクラップが二二・九%減の一万一、一三六七t。

輸入

輸入は電気銅が前年比五九・二%減の一、六七三t、スクラップが一八・九%減の八、五九七t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比六・四%減の五万九、六〇〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比八・六%減の五万四、一〇〇tであつた。

■概況

【自動車生産】

一月の四輪車生産台数は七三万二、八八六台で、前年同月の七七万七、七五六台に比べて四万四、八七〇台、五・八%の減少となり、二月連続で前年同月を下回つた。

一月の国内需要は三八万二、八七六台で、前年同月比四・六%の減少であつた。うち乗用車三二万八、九九四台で前年同月比四・四%の減少、トラック五万二、九〇九台で同六・五%の減少、バス九七三台で同三二・二%の増加。輸出は前年同月比一・八%の減少。(実績)

【自動車販売】

二月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二七万五、一六五台で前年比四・六%減。四力月ぶりマイナス。うち乗用車四・一%減、貨物九%減、バス三七・四%増。

【住宅着工数】

・平成二八年一月の住宅着工戸数は六七、八一五戸で、前年同月比で〇・二%増となつた。また、季節調整年率換算値では八七、三万戸(前月比一・五%増)となつた。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で貸家が增、持家、分譲住宅が減となつた。季節調整値については、前月比で持家が增、貸家、分譲住宅が減となつた。

・住宅着工の動向については、全体として平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが続いてきたものの、足下では横ばいの動きとなつている。

・引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

〔四面より続く〕

〔伸銅品生産〕

伸銅品生産は前年比六・四％減の五万九、六〇〇tで一カ月連続マイナス。このうち、内需は五万〇、八〇六tで三・二％減と一五カ月連続マイナス、輸出は八、七九四トンで一・二％減と一〇カ月連続マイナス。品種別では、銅条は一万八、二二八tで七・七％減と九カ月連続マイナス。黄銅棒は一万四、二七四tで〇・一％増と三カ月連続プラス、底入れの兆し？

〔電線〕

前年比八・六％減の五万四、一〇〇t。うち、国内五・四％減、輸出が七四・七％減。部門別では、通信一九・二％増、電力二・六％増、電気機械九・八％減、自動車一・八％減、建設電販五・六％減、その他内需一〇・四％減。【輸出】電気銅輸出が前年比二六・八％増の四万八、九六六t。銅スクラップは二・九％減の一万一、一三六t。

【輸入】電気銅が五九・二％減の一、六七三t。スクラップは一八・九％減の六、五九七t。

〔見通し〕

・自動車は生産が五・八％減。二月の国内販売台数が前年比四・六％減。生産が二カ月連続マイナス、販売が四カ月振りマイナス。生産が連続減少となった。販売の方が一転四カ月ぶりマイナスに。販売のマイナスが続くかどうか今後の動向に注目。

・住宅着工の動向については、全体として平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが続いてきたものの、足下では横ばいの動きとなつてきている。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・伸銅品は一カ月連続マイナスの前年比六・四％減。需要の多い銅条が九カ月連続マイナス。黄銅棒が三カ月連続プラス、輸出も前月に続き減少が続き七カ月連続二けたマイナスの二・二％減。黄銅棒が三カ月連続でプラスに転じており今後の回復が望まれる。

・電線は輸出が七カ月連続二桁減少の七四・七％減。内需も減少の五・四％減。

・銅輸出は生産減少による国内玉の需要減から地金は増加、スクラップ共に内需の発生難を受けて減少した。

・銅輸入は、生産減少による国内玉の需要減から地金、スクラップ共に内需の低迷から減少した。

〔スクラップ需給予想〕

流通在庫は、銅建値が六〇万円から一時五五万円まで下落したことから塩漬け玉が多少あるが、ここ最近ほとんどの分野で生産販の現象が続いており発生難の状況が続いている。

生産が三カ月連続上昇の黄銅棒に必要な真鍮粉は需給がひっ迫しているもの、その他は安定が続くのではないかと。

〔価格・為替予想〕

今月は、G20後の中国の景気対策と原油の生産調整問題に左右される。

G20後の中国の景気対策に関しては、上海株がデッドラインと言われた三、五〇〇を大きく下回る二、七〇〇付近で推移しているもの、G20前に追加の金融緩和策や財政出動に言及し、財政・金融政策を総動員して景気を下支えする姿勢を強調したこと、また実際に二十九日、追加金融緩和に踏み切ると発表、預金準備率を〇・五％引き下げたことから今後の追加的な対策に期待される。

原油減産問題に関しては、ロシアのノバク・エネルギー相が、大多数の産油国が増産凍結で合意したと述べた事や産油国は原油の供給を安定させる方法で今月中に合意するとも話したこと、原油が一時三四・七六ドルまで上昇し、期近物として一月二十八日以来ほぼ一カ月ぶりの高値を付けたことから今後の供給の安定に期待される。

それらを踏まえた三月の銅価格は、中国が新たな景気対策などを行い、原油の減産合意が行われた場合、二月高値の一段高四、八〇〇ドルを予測。いずれかの場合は四、五〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合、二月もう一段安値の四、四〇〇ドル。

為替は、日本が先のG20で為替介入に關して、自制を求めるように釘を刺された事や、英のユーロ離脱懸念の再燃が今月のポイントとなるだろう。

それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、英国のユーロ懸念が再燃した場合、安全資産の円買いから一一円台を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や金融緩和策を行い、英国のユーロ離脱懸念が後退した場合、一一七円を予測。

銅建値に関しては五三〇〇〜六一〇〇円程度と予測している。